



新着図書のご案内

清らかな陽の光と共に、昭和六十二年がやってきました。明けましておめでとようございます。本年も市民の皆様方の期待する図書をと、心がけて参ります。どうぞ一人でも多くの方々が、本と親しくされますことを望んでおります。

◇一般図書◇

日本のシ語 赤羽建美
ライシャワーの日本史
E・O・ライシャワー
六・八・九の九 永 六輔
文部官僚の逆襲 石山茂利
税金革命 読売新聞社
地球絶滅動物記 今泉吉典
男の腕まくり 朝日新聞社
おいしいおせち特選 学研
これがオレの野球人生だ
山本浩二
田辺聖子の小倉百人一首
田辺聖子
神鷲(ガルグ) 商人上・下
深田祐介
埋もれた青春 赤川次郎

◇児童図書◇

キネマの天地 井上ひさし
ホテル・ストリーパー 森 瑤子
脳 死 立花 隆
幻景の街 前田 愛
アンネの日記(新訳)
アンネ・フランク
私自身のための優しい回想
フランソワーズ・サガン
ほか一六八冊

◇児童図書◇

ハートの手あみノート
夢いっぱい袋と小もの
ぶきつちよさんのケーキづくり
切手収集と楽しみ方入門
おもしろパズルランド
おかあさんはえらい
わずれられないおくりもの
おしよがつこびとのおはなし
まめまきこびとのおはなし
ちゅうしやなんかこわくない
ならこのかきのき
ほか八八冊
一計一
児童図書 一〇七冊
一般図書 一八七冊

家庭教育(二) 知ることの喜び

家庭教育で育てたいもの一つに、知ることの喜びがあります。学校へ入る前の幼い子どもの心に、物事を知る喜びを定着させたいものです。物事を知る喜びというのは、別の言い方をすると、子どもの知的好奇心を育てることです。

子どもは、「なぜなの。」「どうしてなの。」「ということ、親や身近な人に対していろいろと聞いてくるものです。このように子どもが疑問に思う「なぜ」という問いに丁寧に、そしてわかり易く教えることが出来たか、どうかということが、それから後の知的発達と重要な関係があります。

例えば、「お月さまはなぜ下に落ちないの。」とか、「猫は赤ちやんでもひげがなぜあるの。」とか、「家の電話は黒いのに外の電話には黄色やみどりがないの。」というような質問に答えます。

答えは「なぜそんなこと聞くの、いやな子ね。」とか「大きくなればわかるよ。」「そんなことどうだっていいでしょう。」「というような答えをしたら子どもの知る喜びを摘んでしまいます。それならどうしたらよいでしょう。

たとき、「電気で開くの。」といったのでは、子どもにはわかりません。三つ、四つの子どもは電気といえば明るくする電気しかないので、こんな時聡明なお母さんは重さ加わると開くのだからということをお母さんで覚えておきます。

自動ドアの前で「なぜこのドア自然に開くの。」と聞かれ

静かな澄んだ表情を

教育相談室

1111

内線 216